

## Comments on *Gymnocalycium bodenbenderianum* and *Gymnocalycium riojense*

「*G. bodenbenderianum* と *G. riojense* に関する論評」



Wolfgang Papsch  
Ziehrenweg 6, 8401 Kalsdorf (Austria)  
e-mail: [wolfgang.papsch@schuetziana.org](mailto:wolfgang.papsch@schuetziana.org)

※ これは、Mario Wick 氏らが主宰する、*Gymnocalycium* のインターネットジャーナルに載せられた記事です。著者の好意により、翻訳の掲載許可を頂いています。無断転載を禁止します。(翻訳：島田 孝)

### 概要

特にドイツ語圏だけでなく、それを越えた地域でも、ギムノカリキウム愛好家の会合では、*Gymnocalycium bodenbenderianum* と *G. riojense* は 2 つの別々の種であると言う、見解が持続しています。多くのスペースが、いろいろな（部分的に広範囲な）文献で、この理論に捧げられます。(Till et Till 1991, Amerhauser 2009)

*G. riojense* が San Agustin de Valle Fertill (San Juan 州)、Chamical (La Rioja 州) と Casa de Piedra (Catamarca 州) を結ぶ北部地域に生息することが、ここで示唆されます、ところが、*G. bodenbenderianum* は、Sierra de Malanzan (Sierra de Argañaraz, Sierra de Abajo) の南端、そして、Sierra de Ulapes 周辺で見つかります。

(訳者注；日本では、一般的に、和名；怪竜丸の学名は *G. bodenbenderianum*、和名；守殿玉の学名は、*G. riojense* としている。守殿玉の学名を *G. stellatum* とするのは間違いで、この学名は、和名；龍頭に該当する。著者(Papsch 氏)は、原記載から考えると、和名；守殿玉の学名が *G. bodenbenderianum* になると言う見解を記述している。)

キーワード：Gymnocalycium, *Gymnocalycium bodenbenderianum*, *Gymnocalycium riojense*, Nomenclature(学名命名法)

### 議論：

Alwin Berger が、Hofgarten の管理者を退職した時、そして彼は、La Mortola Botanical 庭園 (イタリア) の前管理者でもあったが、1929 年、Erfurt にある、Friedrich Adolph Haage jr. の園芸業者と接触し、*Echinocactus bodenbenderianus Hosseus* を学術記載しました。(Berger 1929) その前年には、Haage は 1928 年のサボテン価格表で、この新しい *Echinocactus* をすでに提供していました。海外の彼の顧客に譲歩して、彼は Britton と Rose によるものと Karl Schumann によるものと、それらの命名法を対比して、それを *E. Bodenbenderianus Hoss. sp. nov.* (新種)、ならびに *Gymnocalycium bodenbenderianum* Hoss. と呼びました。彼は、「珍しい、*G. Hossei* に関する、良く開花する。」を加えました。(Haage 1928) 学名の命名法に関しては、Haage の名前は、裸名 (nomem nudum) のままでした。Haage は著者引用によって「Hoss.」を表示します、その植物は、Carl Curt Hosseus から来ました。この命名法は、1917 年にアルゼンチンに来た、ドイツの地質学者 Wilhelm Bodenbender 博

士に敬意を表します。当初、彼は Friedrich Kurtz と共に北西 Patagonia 地域への、いくつかの研究遠征を組織しました。そして、後にまた、Hosseus と共に、他の地域、Sierras Pampeanas を探検しました。

(訳者注; Alwin Berger は、ドイツの植物学者、園芸家、多肉植物の分類学の分野で貢献した。Hofgarten とは、宮庭庭園の意味で、München にあるものが有名だが、ここでは、Stuttgart にある Hofgartens と思われる。N.L.Britton と J.N.Rose はアメリカ、Karl Schumann はドイツの著名な植物学者、Carl Curt Hosseus は、ドイツの植物学者、アルゼンチンに移住し、1913-15 年に Patagonia 地域を探検したのち、1916 年、アルゼンチン、Cordoba 大学の教授で、その付属植物博物館の館長となった。Sierras Pampeanas とは、北東アルゼンチンの周辺のパンパス地域から急上昇する山の一続きで、アンデス山脈と平行して走る、その頂上線はアンデス山脈頂上線の約 540km 東側にあり、7 つのアルゼンチン行政区に渡る。: San Luis 州、San Juan 州、Córdoba 州、La Rioja 州、Catamarca 州、Santiago del Estero 州と Tucumán 州)



Fig. 1 PhD Wilhelm Bodenbender  
([http://insugeo.org.ar/libros/cg\\_19/01.htm](http://insugeo.org.ar/libros/cg_19/01.htm))



Fig. 2 Carl Curt Hosseus  
(A.E.Cocucci (2003)からのコピー)

Berger は、直径が約 8cm の非常に平坦で、ほとんど円盤状の褐色を帯びた灰緑色の植物について記述します。頭頂部は刺が無く、多数の未成熟で尖った、円錐形状の瘤が点在します。11 から 14 の陵は、高さが低く、幅広で丸い。刺座らしい汚れた灰色の綿毛の間で、直角で鋭利な溝により台形のコブに分割されます。刺座は、3 から 5 本の固い、10mm 長さの刺を持ち、そしてその刺は、弓形状で、後方に向きます、当初は黒褐色で、後に灰色がかかった茶色となります。おそらく、Berger 自身は、花を見ませんでした、なぜなら、中程度の大きさ、褐色がかかった中筋を持ち、さめた淡いピンク色を帯び、そして若い刺座から発生するという、Haage の供述に従い、単に記述したからです。けれども Haage は、Berger と同様に *G. bodenbenderianum* を良く開花するとして記述しましたが、開花した植物のその当時の写真は存在しません。学術記載に言及された、青い色は、*G. bodenbenderianum* が *G. hossei* と類似していると言う Haage の見解に基づくのかもしれませんが。さらにまた、彼は、その植物が、Haage によって紹介された植物、*E. quehlianus* に密接に関係し、そしてそれらの種は、それは、Britton と Rose の体系で *Gymnocalycium* 属に割り当てられなければならないとしました。

(訳者注 ; Berger の Kakteen(1929)には、「Fr. Ad. Haage jr.により輸入された。Fr. Ad. Haage jr.に基づいて花は学術記載された。E. Quehlianus に非常に近い位置にある。」と書かれている。また、胴体の事だと思われるが、単に、「青っぼい」と書いている。)

特に後の問題は、著者の正しい引用に関して、論争的となる意見につながります。New Cactus Lexicon とその後の Graham Charles の本では、A. W. Hill が、その種を *Gymnocalycium* 属へ移していた人と発表されます、それゆえ *Gymnocalycium bodenbenderianum* (Berger) Hill として言及されます。(Hill 1933, Hunt et al. 2006, Charles 2009) 一方、International Plant Names Index (IPNI) では、この種は、*Gymnocalycium bodenbenderianum* A. Berger としてリストアップされています。そこには説明が追加されています。「Berger (pp. 221, 337, 339)は、*Echinocactus Bodenbenderianus* を正しい学名とした、pp.337, 341 (index)で、p. 221 に関連して、彼は\*の記号をつけ、新しい名前 *G. bodenbenderianum* をリストアップし、その名前を与えることを言及した。Berger が *E. Bodenbenderianus* と他の名前として *G. bodenbenderianum* を発表したことは、ここで解釈されます。」

(訳者注; Berger の Kakteen(1929)では、221-222 ページに、*Echinocactus Bodenbenderianus* Hosseus (1928) – *Gymnocalycium* Berger として学術記載され、P337-345 からの Sachregister(索引・インデックス)の 339 ページに *E. Bodenbenderianus* 221、341 ページに *Gymnocalycium Bodenbenderianus* \* 221 としていることを指す。)

Berger は良い写真を、彼の学術記載に加えます。そして、それは記述された特徴を描写しています。Haage も Berger も、正確な産地を引合いに出しません。記載の産地としての Cordoba は、単に Berger の仮定だけです。そこで、Hosseus を詳細に観察することが適切のようです。Carl Curt Hosseus は、1878 年 Thale の Stromberg(ドイツ)で生まれました。彼は植物学を学び、1903 年に博士号を獲得しました。研究旅行は、彼をタイ、スリランカ、シンガポールとマレーシアへ連れて行きました。彼は 1913 年にアルゼンチンに移住しました、そこで、彼はいくらかの研究旅行の後、1916 年に Cordoba 大学の植物学教授として雇用されました。

(訳者注; Thale と Stromberg は約 450km 離れている。Carl Curt Hosseus was born in Stromberg im Thale, Rhineland, Germany in 1878 と書かれている記事があるので、Rhineland (Land Rheinland-Pfalz)の州都である Mainz 近くにある Stromberg とと思われる。)



Fig. 3 Alwin Berger (出所: Wikipedia) Fig. 4 *G. bodenbenderianum* ( Berger 1929 よりコピー)

1915 から 1925 年にかけて、彼は北アルゼンチンの大部分を旅しました。そして、研究の焦点をサボテンに置きました。そうする時に、彼は 1915 年に Chilecito – Cuesta de Miranda – Villa Union –

Guandacol—Rio Blanco—Carrisalito—Majadita—Rio Cura—Jagüel—La Troya—Vinchina—Cerro La Famatina の線に沿って、La Rioja 州と San Juan 州を訪問しました。

1917 年 7 月、La Rioja 州は、もう一度の彼の目的地でした、Jujuy 州（たとえば La Quiaca）そして、ボリビアは後ほど加えられました。1917 から 1919 年にかけて、Capilla del Monte でのいくつかの滞在は、そのあとに続きました。1921 年 2 月に、彼は San Juan 州と Mendoza 州を訪ねて、Cerro Pillar—Cerro Challao—Barcale—Valle de las Cuevas—Cacheuta—Marayes—Las Chacritas の線に沿って、植物と地質の研究をしました。

彼は 1925 年 6 月に San Luis 州と Mendoza 州の地域周辺を旅行しました、その時の彼のルートは、Villa Mercedes、Rio Cuarto、Laguna Bebedero、Achiras を経由して Cerro Morro まででした。1925 年 9 月に、彼の旅行の目的地は、Parque Aconqija、La Fronterita と Tafi Viejo がある Tucuman 州でした。

1925 年 8 月に、彼は Chubut 州へ向け、南の方向に再び出発しました。そうする際に、彼は Puerto Madryn、Trelew、Cabo Raso、Camarones と San Antonio Oeste を訪問しました。1925 年の末に、彼は行政区 Catamarca (Mazan-Poman-Andalgala-Belen-Londres) で、ようやく旅行しました。1925 年の終わりに、彼は、最後に Catamarca 州(Mazan—Poman—Andalgala—Belen—Londres)を旅行しました。

1926 年に、Hosseus は彼の作品「Apuntes sobre las Cactaceae」を出版しました。そこにおいて、*G. bodenbenderianum* は載っていません。彼は、Cordoba の *G. quehlianum* と同様、単に Cordoba、La Rioja と Catamarca の *G. stellatum*(Spegazzini に従い)言及しています。前述したように、Haage は 1928 年に初めて *G. bodenbenderianum* を提供します。おそらく、Hosseus は 1925 年以後、そして、1928 年以前に植物を集めました。彼には、1927 年 4 月の La Rioja 州でのサボテン研究の間に、この可能性がありました。彼の主な研究地域は、Chilecito 周辺と Sierra de Famatina 地域にありました。彼が Haage に送った植物は、このようにこの旅行から始まるに違いありません。

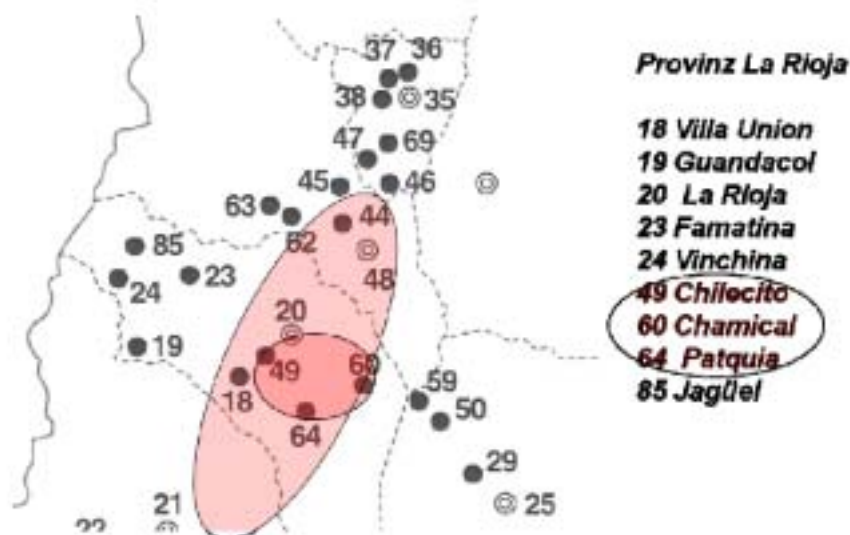


Fig. 5 La Rioja 州での Hosseus の旅行の文書化されている場所。49、60 および 64 は、*G. bodenbenderianum* の産地と思われる地点を示します。薄い赤色で印された地域では、*G. bodenbenderianum* のさらなる分類群を見つけることができます。(A. E. Cocucci (2003) からのコピーが適応される。)

1928年6月、彼は、Chaco州、Tucumán州とSalta州へと北に向けて出発しました、そしてその年の終わりに、Chepes周辺の山脈を見るために、Serrezuela、Milagro、TelloとChepesに出かけました。(Cocucci 2003)しかしながら、年代順では、この旅行は、Haageのカatalogを出版した後になります。それで、植物は、この旅行の由来とすることができず、回想されたものかもしれません。

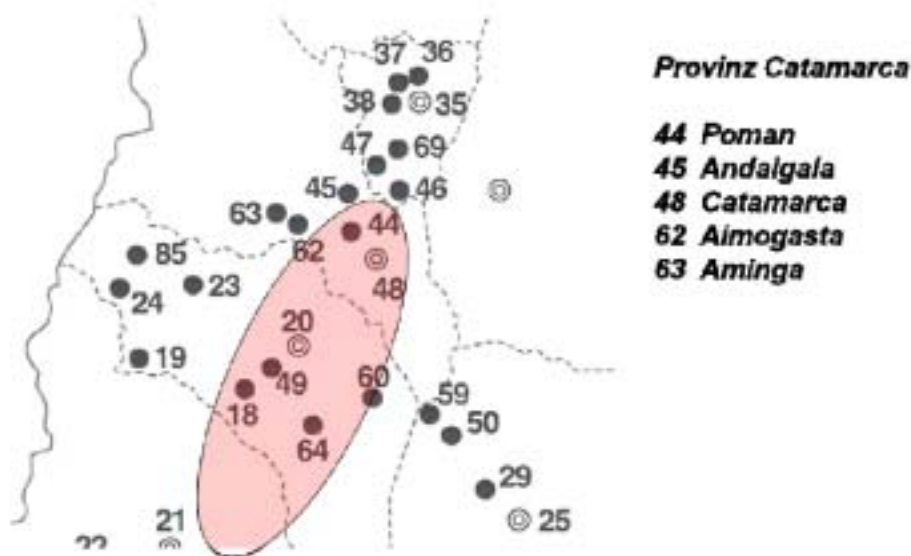


Fig. 6 Catamarca州でのHosseusの旅行での文書化された場所。薄い赤色でドッドで区切られた地域では、*G. bodenbenderianum*の更なる分類群が見つかります。(A. E. Cocucci (2003)からのコピーが適応される。)

*G. bodenbenderianum*の産地に関する別のヒントは、1939年にHosseus彼の最終的なサボテンの著作「Notas sobre Cactaceas Argentinas」の中で与えられます。それを文字通りに引用すると：

Las especies *Gymnocalycium Hossei* (F. Haage Jr.) y *G. Bodenbenderiana* se encuentra casi siempre en forma asociada en la Prov. de La Rioja, en una zona pedregosa, pequeña y de poca altura, mientras que la variedad muy espinosa de *G. Hossei*, crece en casi 2000 m. s. n. m. en la misma provincia, sobre areniscas coloradas de la formación de Paganza, con raíces relativamente profundas. Una fotografía muy ilustrativa con el nombre de *Echino-*

「*Gymnocalycium hossei*と*G. bodenbenderiana*(sic.!(原文のまま))種は、La Rioja州の小規模な、低い高度の石の多い場所で、いつも一緒に、たいてい見つけることができます。しかるに、刺だらけの*G. hossei*の変種(=*G. rhodantherum*、著者のコメント)は、さらに成長し、Paganza地質層の色がついている砂岩上で、同じ地域の殆ど2000mの高度で、比較的、深く根を張ります。」

1939年にHosseusによって発表された情報は、1927年と1933年の小旅行の間に集められました。彼は、1933年2月以前にPatquia-ChamicalとGuanchin-Chilecitoの間のサボテンを探していました。このように、*G. bodenbenderianum*の産地は、北のChilecitoと南のPatquia間の地域に制限することができます。Bergerによって記述されたタイプ種は、この地域の多数の場所で見つかります。この地域

の南には、この植物のタイプ種が見つかる、Hosseus により文書化された場所はありません。(Fig. 5 参照)

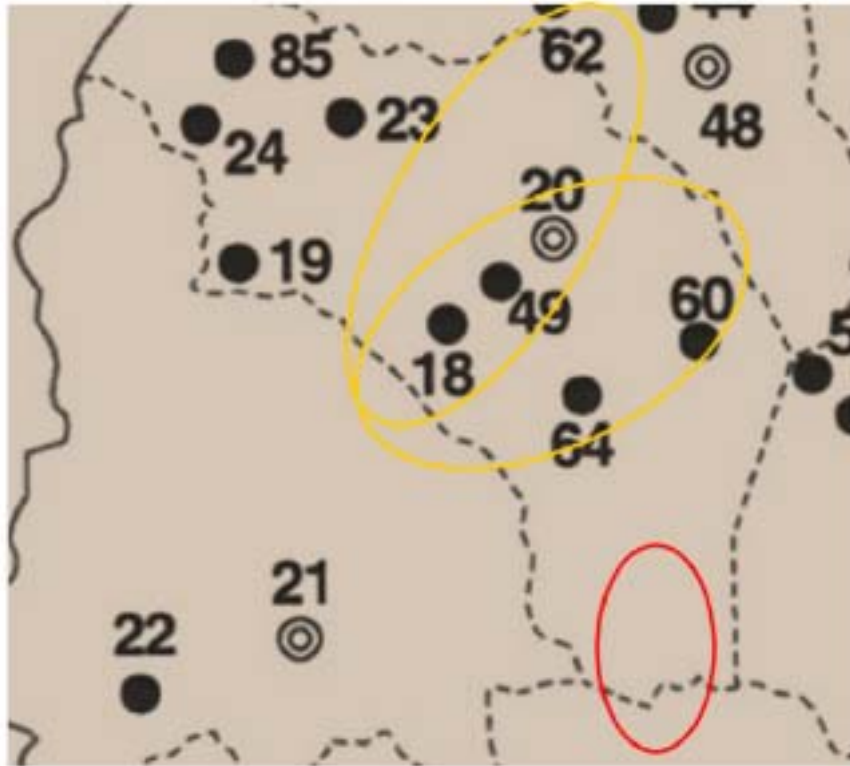


Fig. 6(2) Hosseus の Rioja 州における旅行での文書化された場所。 *G. bodenbenderianum* の産地は、黄色で分けられます。赤い地域は Sierra de Ulapes 周辺を示します。そこでは、1928 年以前に Hosseus によって与えられた情報はありませぬ。(A. E. Cocucci (2003)からのコピーが適応される。)

プラハ(チェコ共和国)の植物学者でサボテン商の Alberto Vojtěch Frič は、彼の植物の種類で番号 67 の品目として、いかなる詳細な情報に無しに、「*G. Riojense*, Frič. sp. n.」としてリストアップしました。この植物は、彼のさらなる提示に、これ以上現われませぬ。K. Kreuzinger は、*G. nidulans*、*G. occultum*、*G. platense*、*G. quehlianum* と共に、この植物を Frič によって確立された、亜属 *Trichomoseminae* (sic. ! (原文のまま)) と同列に評価します。(Kreuzinger 1935) 全般的に見て、Frič は 1901~1929 年に南アメリカへの 7 回の旅行、ならびにメキシコへ 1 回の旅行をしました。

15.5.1901 - 5.8.1902 Latin America – Brazil  
 11.8.1903 - 17.9.1905 Latin America – Uruguay  
 21.8.1906 - 8.1908 Latin America – Brazil, Argentina, Paraguay  
 1909 - 1912 Latin America – Paraguay, Argentina  
 25.5.1919 - 11.6.1920 Latin America – Uruguay, Argentina  
 1923 - 1924 Mexico  
 1.1927 - 6.1927 Latin America – Brazil, Uruguay, Argentina, Paraguay  
 25.10.1928 - 29.3.1929 Latin America – Uruguay, Argentina

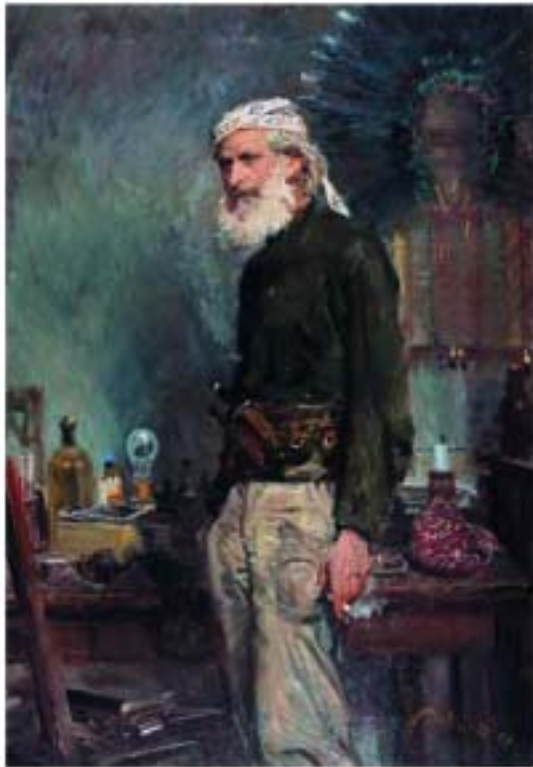


Fig. 7 A. V. Frić.



Fig. 8 カタログ“Cactus Hunter 1929”の表紙

その時の2つの旅行から、Ivana Frić への手紙があります。例えば、1927年2月15日付けの Patagonia からの報告書があります。特に面白いのは、1928年12月23日の Catamarca から、1928年12月25日の La Rioja から、そして1929年1月8日の Tucuman からの手紙です。特に後者では、彼の *G. riojense* に関するヒントがあります。彼はとりわけ以下のように書きます。(訳者注;以下はチェコ語、翻訳は島田壽男氏にお願いした。)

「私は、後に視覚的に類似した、ギムノカリキウムを La Rioja 州で採取した、しかしより長い刺を持っていた、そして更に後で、Nonogasta では、非常に長くて、もつれた刺を持つギムノカリキウムをごく僅かの個体例で採取した。しかしながら、二つの変種は、異なる種子を持っていた。私が Guanchin で、高度 1700m で発見した、一つのギムノカリキウムの個体例のように、私の、地域的な、興味深い発見に属している。これらの種は、*Gymnocalycium lariojense* sp.n.、*Gymnocalycium nidulans* sp.n.と *Gymnocalycium guanchinense* sp.n.を示している。Nonogasta の平原では、ある三頭の個体を見つけた、そして *Gymnocalycium occultum* に視覚的にも種子も同一の、一つの単幹の個体例を見つけた、それで、この種が広く分布している事は確実である。」

(訳者注;以下英語、内容はほぼ同じ。)

「後で、私は、視覚上類似したギムノカリキウムを La Rioja 州で見つけた(彼が *Gymnocalycium mostii* と *G. occultum* を Catamarca 州で見つけたことについて書いた、その前の、いくらかの流れがある。(著者のコメント)、しかし多くのより長い刺を持っていた、そして更に後に、Nonogasta で、非常に長くて、もつれた刺を持つギムノカリキウムをごく僅かの非常に少ない数の標本で採取した。しかしながら、両者は異なる種類の種子を持っていた。私は、ギムノカリキウムの少数の標本を採取した、そしてそれは、私のその地域の面白い発見物のうちの1つで、Guanchin、1700m の高度でそれを見つけた。これらの種は、*Gymnocalycium lariojense* sp.n.、*Gymnocalycium nidulans* sp.n.と

*Gymnocalycium guanchinense* sp.n.である。Nonogasta の平原では、私は単幹と三頭の植物を見つけた、両者は外観とその種子により、*Gymnocalycium occultum* と同定される、それで、私は、この種が非常に一般的であることを確信する。」

彼の報告によると、彼は Guanchin(La Rioja 州)の近くで最初の *G. lariojanum* を見つけました。これは、Nonogasta(La Rioja 州)の近くで見つかる植物と異なったにちがいありません、そしてそれを、*G. occultum* と考えました。彼は、後ほど、どこにもこの名前を口にしません。そして、彼は再び *G. nidulans* に言及しません、それは同じ場所で育ちます、そして、後に Kreuzinger によって亜属 *Trichomosemineum* に割り当てられました。

(訳者注 ; *G. occultum* の産地は、Catamarca 州の Miraflores 周辺で、 Fric が *G. occultum* と考えた種は、産地(Nonogasta)から見て、Till による *G. riojense* であり、Papsch 氏が、原記載の *G. bodenbenderianum* Berger とする種である。Guanchin からも、*G. riojense* が報告されている。)

彼の手紙のもう一つの箇所で、彼は Nonogasta からの報告を続けます。 : (訳者注;以下はチェコ語、翻訳は島田壽男氏にお願いした。)

「固い石から構成されている、山脈を非常に稀に、見つける事が出来る。私はこのような山の一つを Nonogasta でも見つけた。私は、何らの成果も無く長い間探した。通常で無い、暑さと希薄な空気は非常に直ぐに、人を疲れさせる。人間は疲れ果てる、そして、何かを発見するという、何らの希望無しに、同じ植生の中を、長い一日全てを、彷徨い歩く、そして探す意欲と探索の鋭さを失う。それで、ようやく、帰路の際に、灌木の下の、Catamarca と La Rioja からの、我々には良く知られていた、幾つかの *G. occultum* の個体を見落としていた事に気付くと言う事が起こった。しかしながら、第二の個体例と、他の二つの個体例は、蕾と果実が、ギムノカリキウム種が問題になっている事を私に確信させた。この種は全てのギムノカリキウムのように変化する(訳者註 *variruje* は辞書に無い、google でも翻訳できなかった。新動詞 *varirovat*=変化するを Fric 氏が作ったか?) しかし、幾つかの個体例は非常に乱雑 (*in diuordered*) で密生した刺を持っていたので、私はこの植物に *Gymnocalycium nidus* Fric sp.n. と命名した。」

(訳者注;以下英語、内容はほぼ同じ。)

「非常にまれに、固い岩からなる山脈を見つめることが出来る。私は、Nonogasta 近くでそのような山を見つけた。私は、無駄に長い間それを探していた。異常に熱くて薄い空気は、人間を早く疲労させる。人々は弱くなる、彼らの欲求および何かを見つめる希望を失う、彼らは、一日中、均一な植生の中で、かすんだ目で探索する。それで、私は、帰り道で、どれくらいの *Gymnocalycium occultum* (それを私は Catamarca と La Rioja からすでに知っていた。)を茂みの下で逃したかについて気がついた。...

二番目の標本と二つの他の標本の蕾と果実は、それがギムノカリキウムであると私に確信させた。すべての *Gymnocalyciae* のように典型的に変化して、これらの植物のいくらかは、乱雑で密生した、刺の配列がある。私は、それを *Gymnocalycium nidus* Fric sp.n. と呼んだ。」

彼は同じ手紙出紙で、続けます。 : (訳者注;以下はチェコ語、翻訳は島田壽男氏にお願いした。)

「その後、一人で、La Rioja へ出かけた、そして、自動車は接続していなかったから、私は其処へ留まった。最初の旅行は哀れであった。半ダースの *Gymnocalycium riojanaum* sp. n.を灌木の下で見つけた。しかし、自動車に対するコストに相応しく無かった、と言うのは、此処では、山への旅行に対して、恥知らずな価格を要求されたから。(訳者註 : *vyzadovani* は辞書に無い、google では *required*=要求されたと翻訳された。) それ故、私は、最初の狩(カクタス収集)を徒歩で実行する事を決心した。しかし、我々は、途中で、空の自動車を停止させた、自動車は山の方へ向かっていた、そして我々に、まともな価格で提供された。如何にして戻るかを知りたかったが、それも無しに我々は提案を受け入れた、そして1時間ほど、かつて見た、最も幻想的な山の中にいた。」



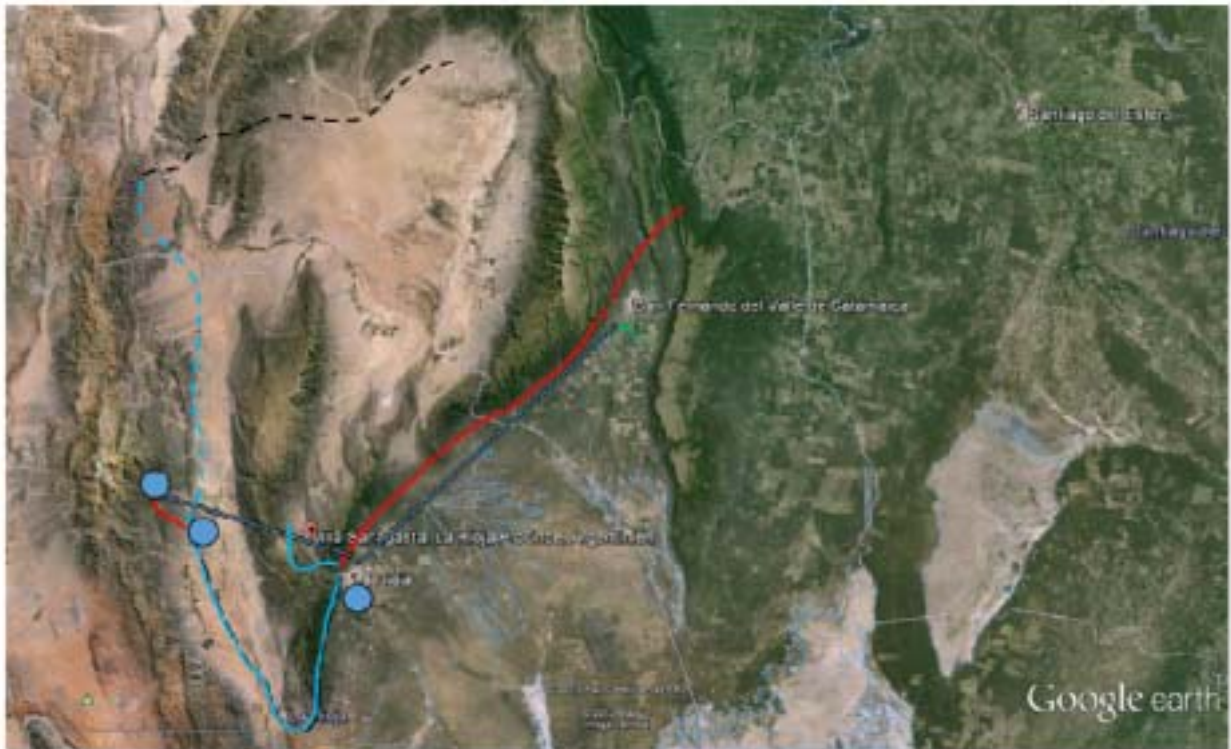


Fig. 9 Frić の旅行日程は、彼の手紙から再構築されます。

(訳者注;以下英語、内容はほぼ同じ。)

「それから、我々は La Rioja へと出かけた、電車の連絡がなかったので、そこに留まった。最初の旅行はわびしかった。我々は、茂みの下で半ダースの *Gymnocalycium riojanum* sp. n. を見つけた。これは車での過大な／厚かましい経費の価値が無かった。そして、車は山への旅行をするために不可欠である。それで、私は徒歩で最初の検索をすることに決めた。しかし、途中で、我々は山の方へ運転できる、空の車を止めた、そして、我々は通常の価格で登れた。戻る方法について、いかなる考えなしに、私はその提供を受け入れた、そして、1 時間後に、我々は、私がこれまでに見た、最高に素晴らしい山にいた。」

この手紙で Catamarca と La Rioja の近くの *Trichomosemineum* の種子を持つ植物を言及するとき、Frić は、最初は *Gymnocalycium occultum* だけに言及します。彼は、それがかなりの分布域を持つ、そして、彼が Catamarca と La Rioja からそれをすでに知っているの、*Nonogasta* の植物を *G. occultum* と考えたと言います。矛盾するけれども、彼は、La Rioja の町の近くで、それを以前に *G. occultum* と考えたことがあります。彼は *G. riojanum* を集めることについてのさらなる、いくつかの道筋を告げます。彼の手紙を客観的に見て、Guanchin からの彼の *G. lariojanum* が、本当に、La Rioja からの彼の *G. riojanum*、および後の彼の *G. riojense* と同義語とすることが出来るかという疑問が生じます。このように、1929 年の彼の提供したものは、疑いとして扱われなければなりません。(Frić1929) :

「64 (2023) *G. spec.* Guanchin (*G. guanchinense* では無い、著者のコメント)

65 (2024) *G. nidulans* sp. n. (絡み合った刺の配列、殆ど標本は輸入されていない。)

66 *G. occultum* sp. n. (興味のある種子形状、一年おきに花が咲く。)

67 *G. riojense* sp. n.]

年表に関して、名前 *G. riojense* Frič ex Pazout の最初の写真(sic!(原文のまま)) (Pazout ら、1960)は、1960年以前に見つけることができません

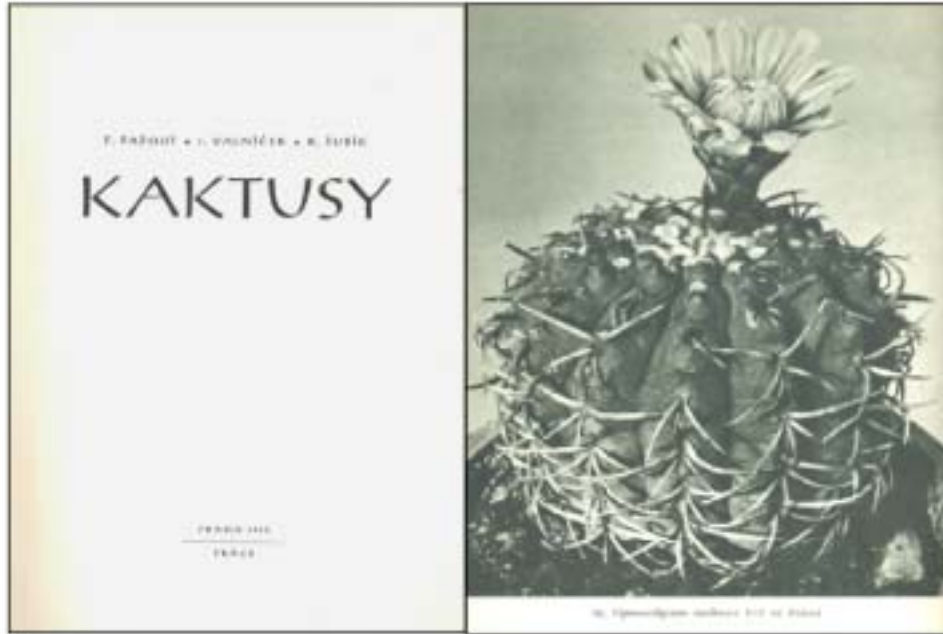


Fig. 10 Pazout らによるコピー 1960

1991年、Hans Till(Attersee、オーストリア)は、Fričの植物をそれぞれ Frič、Kreuzinger と Pazout による名前にしたが、再分類しました。彼は、Bazan と町 La Rioja (La Rioja 州)の周辺地域から植物を *G. riojense* Frič ex H. Till & W. Till として有効化し、WU(Vienna 大学植物標本館)に、正基準標本(ホロタイプ)HT 88-122 のラベルを付けて寄託しました。(Till ら 1991) 彼の *G. riojense sensu stricto*(厳密な意味で)の分布域は、次のように言及されます。「Sierra Los Colorados、Sierra Velasco、Cuesta de Huaco の南、Sierra de Mazan 南端、および Sierra de Arganaraz の南部の間にある、La Rioja 州中央部地域、海拔 300m と 500m の間」

この論文で、H. Till は、Berger による *G. bodenbenderianum* の最初の原記載、および Hosseus の出版物のどちらも言及しませんでした。Frič が集めて、この名前の下で輸入した、前述したリストの理由により、かなり疑わしいので、共著者として Frič を引合いに出すことは、問題を含みます。

同時に、Hosseus が彼の *G. bodenbenderianum* を見つけた地域もまた含みます。そこで、*G. riojense* H. Till & W. Till は、*G. bodenbenderianum* A. Berger のより最近の同義語と結論付けられます。

その地域のそれぞれ北、北東と同様に西の個体群に対して、Till と他の著者は、その後、*G. riojense* のいくつかの亜種を記述します。(ssp. *guasayanense* (Strigl) H. Till ; ssp. *kozelskyanum* H. Till & W. Till ; ssp. *piltziorum* H. Till & W. Till ; ssp. *paucispinum* H. Till & W. Till ; ssp. *vertongenii* Amerhauser)、そのすべては、それゆえに、現在では、*G. bodenbenderianum* に割り当てられなければなりません。種の用語の、いくらか広い解釈、および生息地の地理的な境界線/境界区分の欠如から、*G. riojense* と評された亜種および種類は、ほとんどすべて *G. bodenbenderianum* の同意語と見なすことができます。

(訳者注; H.Till 氏の *G. riojense* の記述(GYMNOCALYCIUM 2(4) 1991 : 47-50)では、  
「*Gymnocalycium riojense* は、あの頃の、多くの別の種と同様、採取の後に学術記載(1960年、Pazout 氏)された。種子は、Pazout 氏によると Frič 氏が 1926年アルゼンチンから持ち帰った。採取

の年は後に 1929 年に訂正された。そして命名も若干、変更にも左右された。Frić 氏は、当初その植物を“*Gymnocalycium larlojanum*”と呼んでいた。それから後に“*Gymnocalycium riojanum*”そして最終的に“*Gymnocalycium riojense*”と名付けた。」と書かれている。一方、*G. bodenbenderianum* に関する論文(GYMNOCALYCIUM 3(5) 1992 : 67-70)では、Berger による *G. bodenbenderianum* の最初の原記載、および Hosseus の出版物、Fr. Ad. Haage jr.のいずれについても言及し、Berger 氏の「挿絵 V にある、*Gymnocalycium bodenbenderianum* の精密な絵は、頻りに Sierra de Abajo と Sierra de Ulapes の間の低地で見つかる植物に合致する。」としている。)

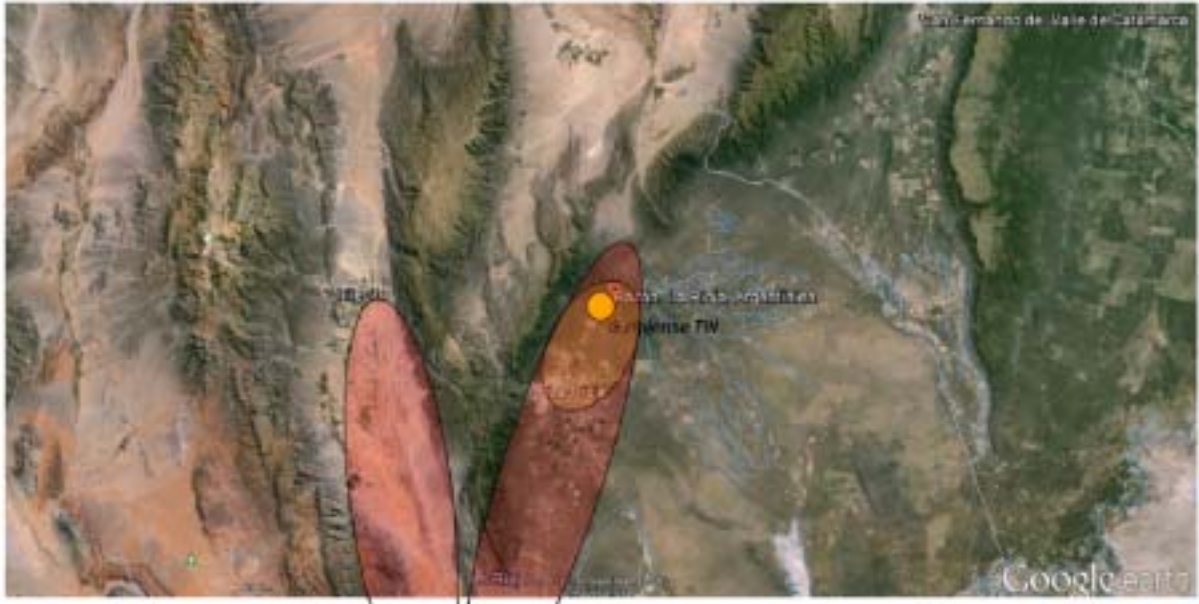


Fig. 11 Till 1991 による *G. riojense* の分布域

## 結論

- Hosseus は、1928 年以前に Sierra de Malanzan の南と Sierra de Ulapes を訪問しませんでした。
- Hosseus の研究旅行のデータは、La Rioja の南、それは Sierra de Ulapes と同様に Sierra de Argañaraz の南端に *G. bodenbenderianum* の起源があるという見解に反駁します。
- Hosseus は、Paganza 地質層などから彼の *G. bodenbenderianum* を報告します。
- おそらく、Haage に送られた Hosseus の *G. bodenbenderianum* は、Chilecito 周辺からの形態であったでしょう。
- この産地は、彼の *G. riojense* の分布域 (Till により特定された) の一部です。
- したがって、*G. riojense* と *G. bodenbenderianum* が同義である、そして、*G. bodenbenderianum* が優先権があると想定されなければなりません。
- Frić が Nonogasta から植物を *G. occultum* としたので、Guanchin から彼の *G. lariojense* はそれらと異ならなければなりません。集められた種が Trichomosemium であったかどうかは、このように非常に疑わしいです。
- Frić は、La Rioja からの植物を *G. occultum* と考えます、他方、彼は同時に、*G. riojanum* 種を集めることについて書きます。
- このように、*G. bodenbenderianum* は、La Rioja (そして、Catamarca) の *G. riojense* としても知られている Trichomosemium 個体群に対する、最も古い有効な名前です。
- Jörg Piltz は、すでに *Gymnocalycium riojense* Frić ex H. Till & W. Till W. Till が *G. bodenbenderianum* のより最近の同義語であると考えました。(訳者注 ; Piltz は、2005 年のリス

トから、この考えを表明しています、それ以前は、採取者による分類をそのまま載せていました。Sierra de Argañaraz の南端からの個体群で、Till 氏が *G. bodenbenderianum sensu stricto* (和名; 怪竜丸に該当)としている、彼の Field 番号 P216(El Cienago)に関し、彼の 2001 年カタログでは、*G. platygonum* としましたが、2002 年からは、*G. bodenbenderianum* に変更しています。Mesa の種子カタログでは、*G. platygonum* P216 のままです。H.Till 氏による *G. platygonum* は、彼によれば、*G. riojense ssp. paucispinum var. platygonum* で、厳密に言えば、P216 とは、異なる種です。)

- 同じ見解は、D. Hunt と G. Charles が保持します。

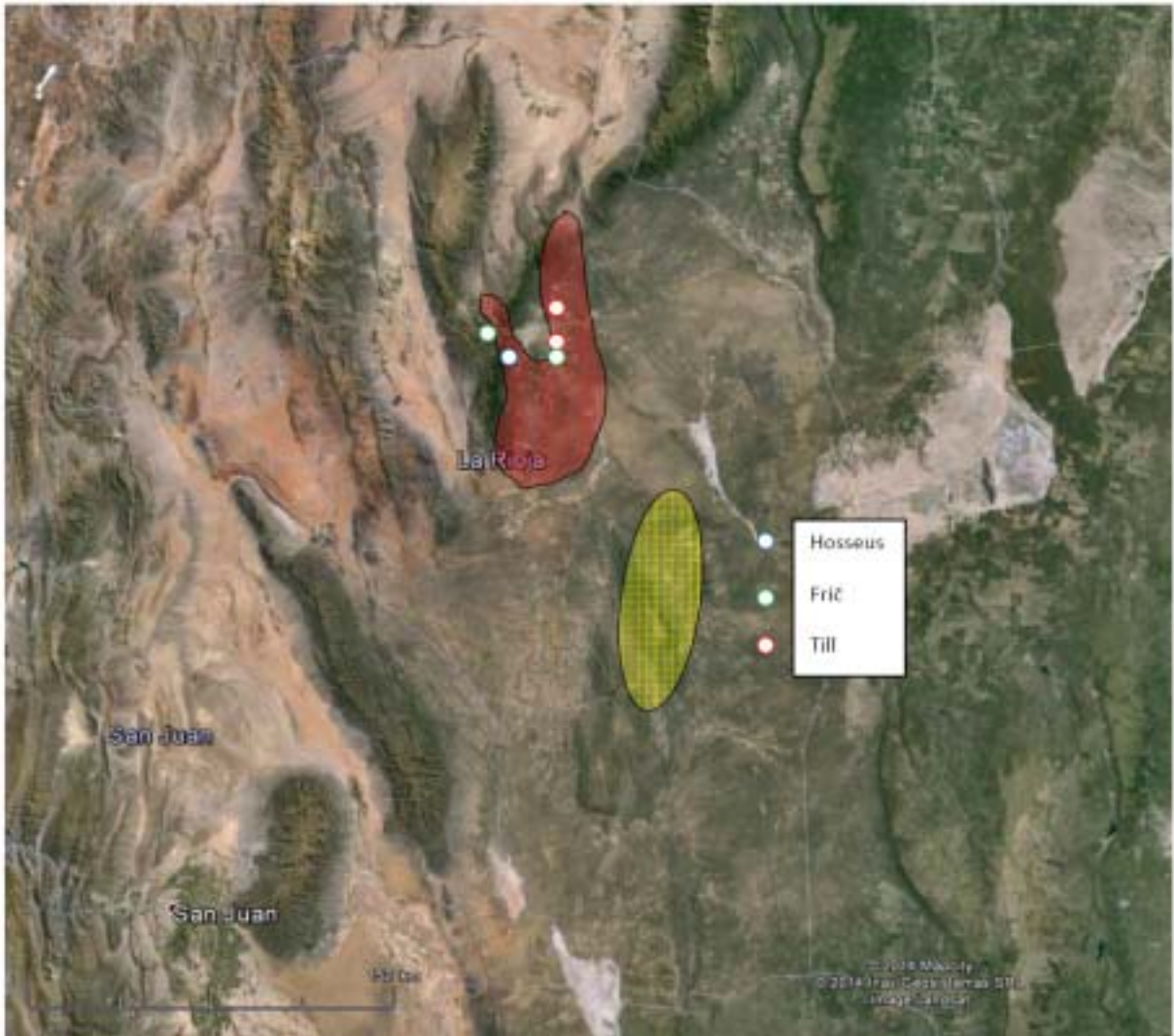


Fig. 12 Hosseus、Frić、Till の産地の照合(訳者注;黄色で囲まれた箇所は、H.Till 氏による、*G.bodenbenderianum sensu stricto* の分布域と思われる。)

以下の更なるアプローチが提案されます：

- Sierra de Argañaraz の南端からの個体群、Sierra de Ulapes からの個体群それぞれについて *G. bodenbenderianum* s. str.(厳密な意味での)とどれくらい違うのか調査されなければならない。
- 断定できる違いの分類学的評価
- 可能な限りの必要な分類学の処置をとること

## 謝辞

私は、この話題に関する、活発で有益な議論に対し、Eugendorf (オーストリア) での国際ギムノカリキウム会議 2014 の参加者に感謝します。さらに、私は、この論文の英語への翻訳に対して、Iris Blanz(Fernitz、オーストリア)、そして校閲に対して、Brian Bates 氏に感謝します。



Fig. 13 *G. bodenbenderianum* WP 403/813 prov. La Rioja, Sierra Brava

## 文献

- Amerhauser, H. (2009) *Gymnocalycium* 22(2): 857ff.
- Berger, A. (1929) *Kakteen*.-Eugen Ulmer, Stuttgart.
- Charles, G. (2009) *Gymnocalycium in habitat and culture*. -Eigenverlag -Ketton, Stamford.
- Cocucci, A. E. (2003) *C. C. Hosseus -Notas Autobiograficas*. -Acad. Nac. Cient. Cord.
- Crkal, K. (1983) *Lovec Kaktus (A. V. Fri.)*. -Verlag Academia-Prag.
- Fri., A. V. (1929) *Kakteenjager*. -Eigenverlag-Prag.
- Haage, F. A. (1928) *Kakteen-Preisverzeichnis 1928*. -Eigenverlag, Erfurt.
- Hill, A. W. (1933) *Index Kewensis Plantarum Phanerogamrum*. -Clarendoniano -Oxford.
- Hosseus, C. C. (1926) *Apuntes sobre las Cactaceas*. -Rev. Cent. Est. Farm. Cordoba II/6.
- Hosseus, C. C. (1939) *Notas sobre Cactaceas Argentinas*. -Arch. Esc. Farm. Cordoba nr. 9.
- Hunt, D. ed. (2006) *The New Cactus Lexicon*. -dh books -Milborne Port.
- Kreuzinger, K. (1935) *Verzeichnis amerikanischer und anderer Sukkulenten mit Revision der Systematik der Kakteen*. -Verlag Kreuzinger-Eger.
- Pazout, F., Valnicek, J. & Subik, R. (1960) *Kaktusy*. -Eigenverlag -Prag.
- Till, H., Amerhauser, H. & Till, W. (2008) *Neuordnung der Gattung Gymnocalycium Teil 2*. -

Gymnocalycium Sonderausgabe 2008 : 816.

Till, H. & Till, W. (1991) *Gymnocalycium riojense*: Validierung, Beschreibung neuer Taxa und systematische Gruppierung nach morphologischen und arealmatischen Kriterien. Teil 1-3. - *Gymnocalycium* 2(4): 47 -4(4): 58.